

障がいのある人も生きやすい社会へ

岐阜市立岐北中学校 3年
伴野 衣咲(ばんの いさき)

私は、「障がいがある」ことは、その人の個性であると考えます。私には、障がいのある同い年のいとこがいます。その子は字を書くことが苦手で、たまに話が通じないことがあります。でも、ゲームがすごく得意で、マイクラフトというゲームでブロックを色々組み合わせすごいものを作ることができます。また、話も面白く、話していると楽しくて自然と笑顔になれます。学校の友達といるのと何も変わりません。

以前、学校で障がいのある人のことについて勉強したとき、何人かの子が「障がいのある子ってかわいそうだよね。」と言っていました。私はその「かわいそう」という意味が分かりませんでした。私には、苦手なことがあります。社会の歴史を暗記することや初めて会う人と話すことです。でも、私が初めて会う人と話すことが苦手でも、誰もかわいそうとか、みんなと違うとは言いません。なのになぜ同じ人間なのに、障がいのある人だけが「かわいそう」などと言われなければいけないのか、不思議に思います。また、Instagramやツイッターでは、「障がい者は不快。」「きもい。」などという、悲しい書き込みを見たことがあります。

このように障がいのある人を差別し、ひどい言葉をあびせてしまうのはなぜでしょうか。私は、障がいのある人に対する思い込みや、決めつけが原因だと思います。

24時間テレビに出ていた、酒井響希さんと葉月さんのことは、知っている人も多いと思います。響希さんは、2歳の頃に両目を失明してしまいましたが、ドラムを一生懸命練習して、夢のステージに立つことができていました。葉月さんは、病気で首から下は麻痺してしまっただけで、料理をしたり絵を描いたりすることができていました。

障がいがあっても、努力し、夢を叶え、できることを増やしている人はたくさんいます。だから、障がいがあるからかわいそうとかできないとか決めつけるのは間違いです。むしろ、障がいがあっても私たちより多く努力しているということがすごいと思います。私たち人間は、誰にだってできないことがあります。なのに、障がいのある人を差別したりいじめたりするということは、絶対にあってはいけないことです。いじめや差別をする人がいるのは不思議だし、信じられません。

そうしたいじめや差別をなくしていくために、障がいのある人と関わる機会を増やし、理解することが大切だと思います。例えば、学校の授業で障がいのある人と関わる機会をもうけるということはどうでしょうか。今、私の学校では毎月3日に「いじめについて考える日」という日があります。でも、障がいの人について考える日は、1年生でやったきり、ほとんどありません。だから、月に1度ぐらいは障がいのある人について考える授業があってもいいと思います。そのような授業をすることで、思い込みや決めつけで障がいの人を判断することがなくなります。そうしたら、町で困っているのを見かけたとしても優しく話しかけられると思います。もちろん、いじめをなくしたり、差別をなくしたりするということにもつながると思います。

障がいというのはその人がもつ1つの個性であり、誰もがもっている苦手なことや得意なことと変わらないと思います。だから、障がいがあるからできないとかかわいそうとか決めつけずに、その人と関わり、理解することが大切だと考えます。得意なことは認め合って、苦手なことは助け合いながら生活していくこと、それが「障がいのある人も生きやすい世界」をつくるための第一歩になると私は思います。